

省エネ観点から まちづくり考察

福井で講演会

国の「SDGs未来都市」に選定されている北海道二世コ町などを例に、省エネの観点から持続可能なまちづくりを考える講演会が21日、福井市の県国際交流会館で開かれた。写真。

同町をはじめ、全国で高気密・高断熱の集合住宅をプロデュースしているウェルネストホーム創業者の早田宏徳さんが講師を務めた。

同町は、一戸建てに住む高齢者が多く、除雪や修繕が負担になっており、エネルギー消費の面からも集合住宅を生かしたまちづくりが必要と説明。最新の集合住宅は、人工知能(AI)



で給湯や空調を自動的に管理し、太陽光発電や蓄電池を活用することで冬でも電気代が5千円前後という。

早田さんは「空調などの自動化は個々の住宅では難しいが、集合住宅なら可能。二酸化炭素の排出量削減や地域のエネルギー需給の安定にもつながる」と強調した。

建築資材専門商社のアロック・サンワ(福井市)が企画。不動産、建築業界の関係者約100人が参加した。(時田有美子)